

# 農業学園だより

令和6年7月

Vol.2

県北農林事務所

経営・普及部門

(常陸太田地域農業改良普及センター)



常陸太田普及センターでは、7月24日（水）に、常陸太田市の小川農業経営士ほ場において「農業学園第2回講座（水稲講座）」を開催しました。常陸太田管内の農業学園受講生5名のほか、地域の水稲経営体や関係機関などを加え12名が参加しました。

第2回講座（水稲講座）では、ドローンを活用した水稲作経営を行う小川氏を講師とし、現地ほ場でドローンによる農薬散布の実演を見学したり、ドローンの活用方法や感じているメリットなどの話を聞いたりしました。

水稲栽培に関して、ドローンの導入や操縦、播種や農薬散布への活用など様々な話題での意見交換が行われ、受講生の意欲の高さが伺えました。



受講生からは、「ドローン導入の参考になった」、「既にドローンを活用しているが、直播にも使うことを検討しようと思った」、「今後の作る品種と市場を考えるきっかけになった」などの声がありました。講師と受講生を交えて、水稲に関して幅広く意見交換ができたことで、今後の営農の参考となった様子でした。

**【講座の詳細、今後の講座の予定は裏面をご覧ください！】**

農業学園では、今後も普及指導員による定期個別巡回を行っていきます。  
その他普段の農業についての疑問や相談など、いつでもご連絡ください！  
常陸太田地域農業改良普及センター（担当：大森、北原）

TEL：0294-80-3340

FAX：0294-80-3348

## 第2回講座（水稻講座）のまとめ

### ◆経営概要（小川 経営士）

- ①栽培品目・面積 水稻 24ha
- ②出荷先 JA、米穀業者、吉野家、ローソン
- ③労働力 家族2人
- ④経営理念 生活も仕事も楽しく！



### ◆ドローンを用いた薬剤散布の実演等

- ・コシヒカリのほ場で、カメムシ防除の農薬（スタークル）の散布を行った。
- ・使った機体はDJI社のT10で、60aの面積の薬散が7分弱で完了した。
- ・近隣の、ドローン直播をしたほ場も併せて見学した。

### ◆講話・意見交換

- ・ドローンを導入したきっかけは、労力軽減のためというのももちろんだが、「楽しく作業ができるため」という側面が大きい。
- ・使用用途は主に直播、追肥、防除である。
- ・ドローンによる作業委託は、自分の作業が遅れてしまうため基本的に受けず、あくまでも自分の作業機として活用している。
- ・使っていて不便だと感じるのはバッテリーの持続であるが、交換バッテリーを併用するなどして工夫している。
- ・ドローンには自動操縦モードもあるが、すべて手動で操縦している。何か危険があった時に自分で対処できるというメリットがあるほか、小川氏自身が操縦を楽しんでいる面もある。

その他に受講者から、防除に使用する薬剤、直播における種籾のコーティング資材・方法や主食用米の売り先など、ドローンに限らず幅広い話題に関して質問が上がっていました。



### 【今後の農業学園の予定】

普及センターでは、農業を始めて間もない方等を対象に農業学園を開催しており、受講者も随時募集しています。ご興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。

| 回   | 時期     | 内容                      |
|-----|--------|-------------------------|
| 第4回 | 10～11月 | 果樹講座                    |
| 第5回 | 11～12月 | 土づくり講座                  |
| 第6回 | 1月     | 県北地域農業青年プロジェクト実績発表会・閉講式 |

※日時等の詳細は決まり次第追ってご連絡します。